選択する未来

「選択する未来」委員会報告 解説・資料集

いまのままでは、日本の人口は急激に減っていくと予測されています。

いま（2010年）
人口 1億2,806万人

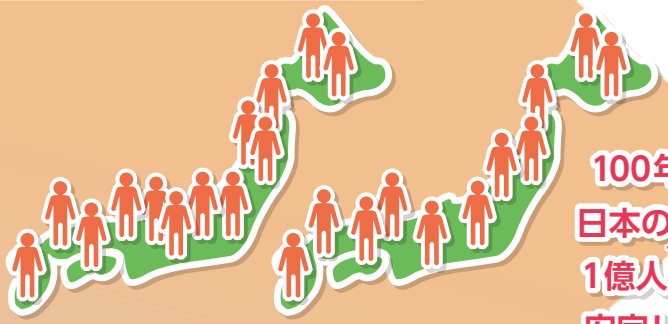
未来（2060年）
人口 1億545万人

もっと先の未来（2110年）
人口 9,661万人

いまから取り組めば「選択できる未来」

1人の女性が産む子どもの数が2人くらいまで増えるとすると…

生まれてくる子どもが増える → お年寄りの割合が増えない → 死亡数が出生数を上回らない → 人口が安定する



100年後も、日本の人口は1億人程度で安定します。

いまのままの未来

〈1人の女性が産む子どもの数〉
1.39人

生まれてくる子どもが少ない → お年寄りの割合が増える → 死亡数が出生数を上回る → 人口が減少していく

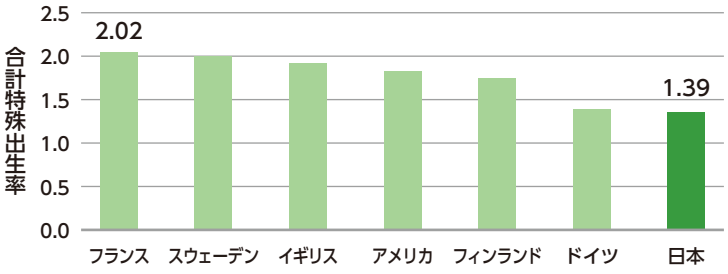
未来（2060年）
人口 8,674万人

もっと先の未来（2110年）
人口 4,286万人

100年後には、日本の人口は約3分の1に減ってしまいます。

外国では何人くらい子どもを産んでいるの？

日本と同じような先進国にも、2人くらいの子どもが生まれている国はたくさんあります。



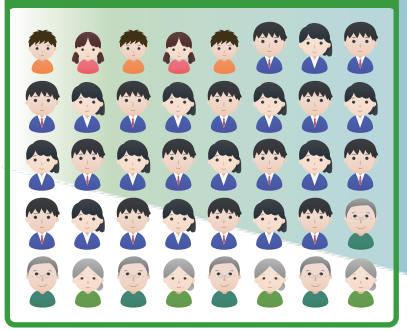
※ 合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

世代間のバランスが崩れるとさまざまな歪みが生じ、また、若い人が少なくなると活力が低下することが懸念されます。

：15歳未満
：15歳以上、64歳以下
：65歳以上

いまの人口構成を学校のクラスで例えると…

いま（2010年）

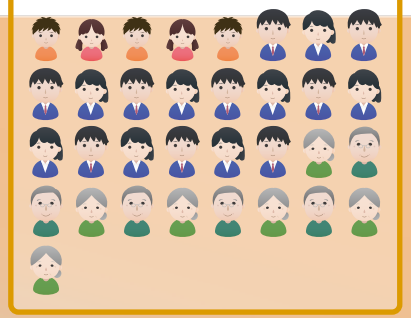


いまから取り組めば「選択できる未来」

1人の女性が産む子どもの数が**2**人くらいまで増えるとすると…

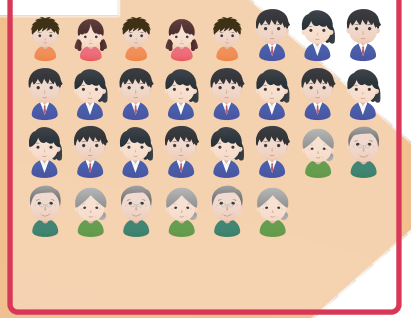
働き手の数が安定する → 豊かさが続く
働き手と支えられる人のバランスが安定する → 将来を展望しやすい

未来（2060年）



働く人が少し減ります。子どもの数は横ばい、お年寄りが少し増えます。

もっと先の未来（2110年）



子どもと働く人、お年寄りのいまのバランスがほぼ保たれます。

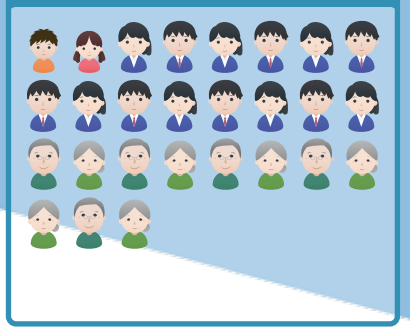
100年後も、バランスの取れた人口構成が維持されます。

いまのままの未来

〈1人の女性が産む子どもの数〉
1.39人

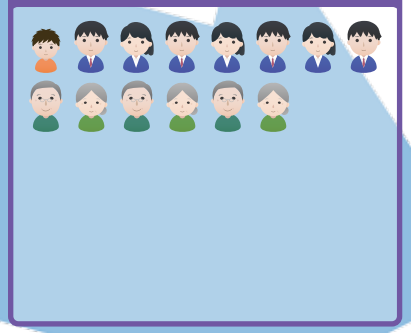
働き手が減る → 豊かさの継続に黄信号
働き手と支えられる人のバランスが不安定になる → 将来が不透明

未来（2060年）



子どもと働く人が減り、お年寄りが増えていきます。

もっと先の未来（2110年）

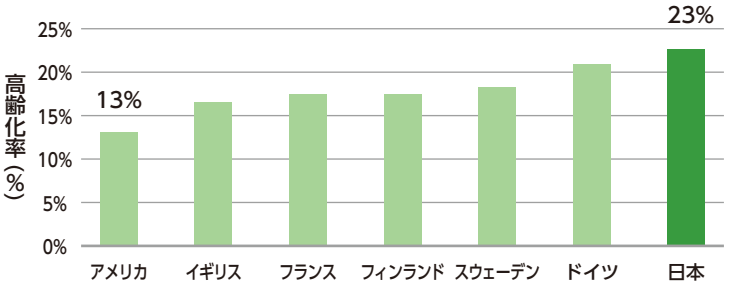


子どもと働く人がさらに減り、次いでお年寄りも減っていきます。

50年後、100年後には、働く人とお年寄りのバランスが不安定になり、子どもは著しく少なくなります。

外国では、お年寄りの割合はどのくらいでしょうか？

世界的に見て、日本はもっともお年寄りの割合が多い国です。



※ 高齢化率：総人口に占める65歳以上人口の割合

働く・産むの選択はとても重要です。一人ひとりの未来と、日本の未来を変えます。

若い成人の約 9 割は、結婚して、2、3 人くらいの子どもを持ちたいと希望しています。しかし、近年は、30 歳直前の男性の 7 割、女性の 6 割が未婚で、その後、結婚しても子どもを 2 人持つに至らない家庭が多数を占めています。20 歳代の女性の 8 割ほどは就職しますが、結婚、出産、子育ての時期には、仕事を辞めたり、変えたりする人がたくさんいます。

働く・産むの選択はとても重要です。何をどのように重要視して選択していくか、自身の希望や能力、個性などを踏まえながら、十分によく考える必要がありますが、選択のタイミングにも気をつける必要があります。あとから挽回できることと、あとからの挽回が大変なことがあることを意識することが大切です。

働きかたと出産の選択

28 歳で結婚・退職、その後はパートタイマー

【生涯収入】4～5 千万円

中間にはさまざまな選択肢

例えば、28歳で結婚・退職、育休期間は非正規社員、34 歳から再び正社員

定年まで正社員

【生涯収入】2～3 億円

（備考）収入、出産等は個人差が大きく、上記は「選択する未来」委員会での参考資料等によるイメージである。

出産時期の選択

早く産む（20代～）

＜メリット＞

- 出産適齢期に産める
- 体力がある、休んでもまだ大丈夫なポジション、子育てに頑張れる

＜デメリット＞

- 同期に後れをとる気がする
- 経済的な余裕がない

（あとから挽回もできる）

遅く産む（30代後半～）

＜メリット＞

- キャリアを形成し、地位を固めてから産める
- 経済的な余裕がある

＜デメリット＞

- 流産や不妊リスクが高まる
- 体力が低下、責任が重く育休をとりにくい、子育てがつらい

（あとからの挽回が大変）

（備考）収入、出産等は個人差が大きく、上記は「選択する未来」委員会での参考資料等によるイメージである。

働きかたの選択肢は増えています。柔軟な働きかたができるケースも増えています。結婚、出産に関しては、年齢が上がっていくと、女性、男性ともに、子どもを授かることが徐々に難しくなっていくことに気をつける必要があります。働きかたや出産時期などの違いによるメリット・デメリットを意識して、自分に合った選択をすることが大切です。

働く・産むの選択に際して、柔軟な発想、多様な観点を持って臨めば、希望はかなえられやすくなります。また、老若男女それぞれがイキイキと活躍できるように、もっと周囲の理解や助け合いが広がっていくことが望まれます。

地域の魅力や特色、日本らしさを大切にすることを通じて日本全体の活気が保たれます。

いまの日本

東京への一極集中と地域の過疎化が進んでいます。

日本の若者

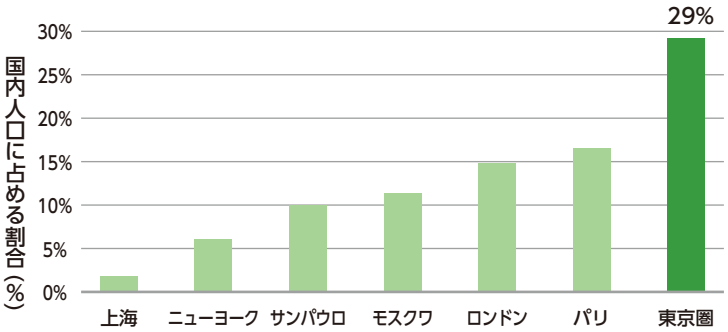
3割が集中

日本の経済活動

4割が集中

外国の都市と比べて、東京にはどのくらい集中が進んでいるのでしょうか？

東京は、世界的に見ても著しく人口集中している都市です。



いまから取り組めば「選択できる未来」

世界に開かれた東京と、地域の自然や文化、歴史などが噛み合って、新しい価値が創造され活気が保たれます。

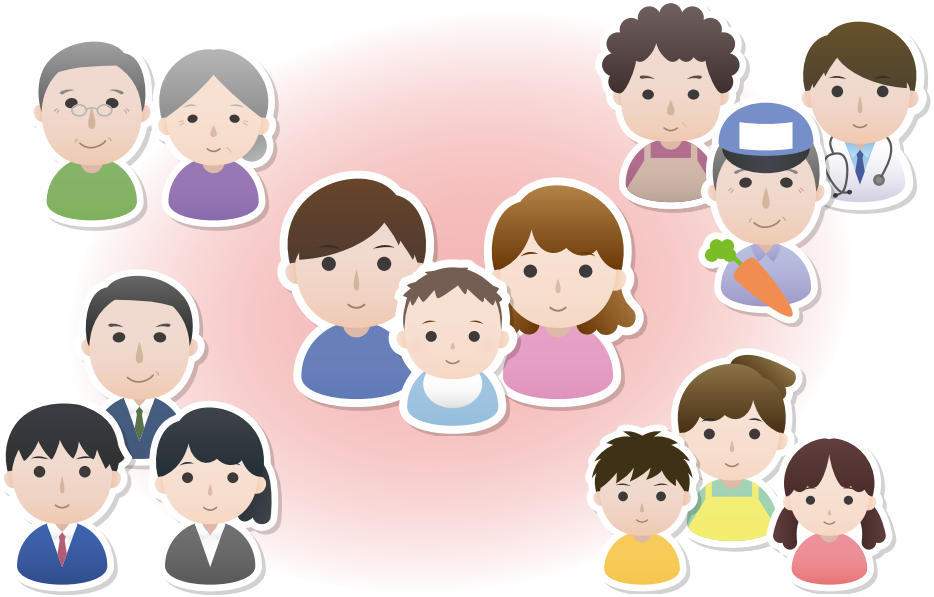
いまのままの未来

東京は過密になり、地域の魅力や特色は失われ、日本全体の活気が失われます。

豊かさの続く明るい日本の未来をめざして

戦争が終わった直後の 1940 年代末頃に 7,800 万人くらいだった日本の人口は、現在は約 1 億 2,700 万人、1.6 倍になりました。経済の規模を示すＧＤＰは、高度経済成長前の 1955 年に 47 兆円でしたが、現在は 480 兆円、10.2 倍まで大きくなりました。半世紀余りの間にはこのくらい大きな変化が生じます。

現在のままだと、日本の人口は、100 年後には３分の１くらいの 4,000 万人くらいになり、それに伴って経済の規模も急速に縮小し、多くの地方のまち・むらが行きづまることになると考えられています。ただし、これは「現在のままだと」という仮定の下での単純な推計に過ぎません。未来は、人々の行動、特に若い人たちの行動の変化によって変わります。



現在の暮し方は、時代が大きく変わってきているなかで、すこし窮屈に無理をしている面があるかもしれません。都会に出て忙しく働き、ふるさとをかえりみる余裕もないままに過ごす。結婚し、家庭を築き、子どもを産み育てたいと思いながら、現実にはそうもいかないまま、どんどんと歳を重ねている。もう少し、希望がかないやすい社会であることが必要です。地域の魅力や特色、日本らしさが大切にされ、希望に沿った働く・産むの選択ができる、そんな社会です。多くの人がそのことに気が付き、世の中の仕組みも少しづつ変わりはじめています。

希望をもって希望をかなえようとする一人ひとりの挑戦や努力と、希望がかないやすい社会にしていく周囲の理解や協力があれば、未来は変わっていくことでしょう。人々の行動が変わる場合と、現在のままの場合では、到達する未来－一人ひとりの未来と、日本全体の未来－はとても大きく違ったものになります。

内閣府

政策統括官（経済社会システム担当）